

ちょっと困った話

— 私の日本語の発音は大丈夫？ —

服部 瑞帆

(浜松日本語学院日本語教師養成講座)

大学で韓国言語文化を専攻していたわたしは、2年生の時に1年間留学をしていました。日本では韓国語の授業をとり、勉強していたものの、韓国人と実際に韓国語を使って話す機会はありませんでした。そのため、韓国での生活は、初めは大変なものでした。ネイティブの話す速度や発音に慣れておらず、聞き取れることはもちろん、発音が悪く、聞き取ってもらえるようになるのにも時間がかかりました。そんなわたしでも1年も生活していると耳も口も慣れていき、現地の韓国人にも「韓国人かと思った！」と褒めてもらえるようになりました。

留学生生活を終え、帰国後は、1年間会えなかった友達とたくさん遊びました。高校時代の友達ふたりと遊んだ時のことです。雑談をしていると、昭和の歌の話になりました。母親の影響で、わたし自身も好んで聞く曲が何曲もあり、その中でもわたしは「オリビアを聴きながら」という歌が特に好きで、カラオケでもよく歌う歌でした。いい歌だよ、と話していると、ふと友達が「誰の歌だっけ」と聞いてきました。「杏里だよ」と答えると、ふたりは不思議そうな顔をして「なに？」と聞き返してきました。「だから、杏里だって」と言うと、また

「なに？なんて？」と言ってくるのです。杏里を知らずに聞き返している様子ではなかったもので、「なんで？」と聞くと、ふたりはクスクス笑いながら、なんと「言えてないよ」というのです。いくら留学に行ってきたからといって日本生まれ日本育ちのわたしが、そんなわけなからう、と「杏里」と意識して口に出してみました。すると、なんとなく口の運びに不自由さを自覚することができたのです。自分でも驚きました。確かに、韓国語だと「ん」の次にラ行がくると、発音の変化の規則によって音が変わります。しかし、今話しているのは日本語で、日本人の友達と話していて、わたしは日本人で…。困惑しました。

「ん」の次にラ行、特に「り」が来ると、発音が若干不自然なことが自分でもわかります。「管理」「権利」「便利」などというときは、今でも少し意識しながら発音しています。日本語の音声をもっとしっかり勉強して音声マスターになれば、わたしは「んり」の音を取り戻すことができるでしょうか…。

(921字)

(2022.6 たどくのひろば掲載)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<https://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.